

6. 学修の成果と卒業認定

6.1 ディプロマポリシー(学位授与の方針)

(1) 学部のディプロマポリシー

本学の建学綱領に掲げる「高邁な人間形成」、「深遠な技術革新」、「雄大な産学共同」の理念に基づき「自ら考え行動する技術者」となるために、豊かな教養と社会で活躍できる以下の能力を身につけ、卒業要件を満たした者に学位を授与します。

- ・ 専門分野の知識を修得し、それらを知恵に転換できる能力
- ・ 地域社会や産業界が持つ多様な問題を発見し、それらを解決できる能力
- ・ 世代・分野・文化を超えた価値観を共有し、イノベーションを実現できる能力

(2) 大学院 工学研究科のディプロマポリシー

各ポリシーの下に行われた教育の成果として、以下の能力を身につけた大学院生を社会に輩出します。

- ① 問題を発見し、解決する能力
- ② 創造性を発揮する高度な専門的能力とイノベーション創出能力
- ③ 予測困難な問題に対する柔軟な対応能力
- ④ 異分野や世代間を含めたコミュニケーション能力とコラボレーション能力
- ⑤ 国内外の動向やニーズを的確かつ広範囲に捉える能力

(3) 大学院 心理科学研究科のディプロマポリシー

各ポリシーの下に行われた教育の成果として、以下の能力を身につけた社会に役立つ心理臨床家を輩出します。

- ① 臨床実践の能力
- ② 臨床心理学的諸現象を科学的に捉える能力
- ③ 確かなコミュニケーション能力とコラボレーション能力
- ④ 国内外の動向やニーズを的確かつ広範囲に捉える能力

(4) 大学院 イノベーションマネジメント研究科のディプロマポリシー

イノベーションマネジメント研究科は、経営分野と知的財産マネジメント分野等に跨る「理論」と「実践」の架橋をはかった教育の成果を通じて、次のような資質を持った人材を社会に輩出することを目的とします。

1. 急激な社会変化に対応し得る経営に関する高度な専門的能力を有し、必要な知的財産を意識した経営を遂行できる。または急激な社会変化に対応し得る知的財産マネジメントとそれを活用するために必要な経営に関する高度な専門的能力を有し、知的財産の適切な保護を図るとともに経営に活用することができる。
2. 強固かつ持続可能なイノベーションを実現するための人間的スキル(「問題発見力」、「独創力」、「ソリューション力」、「プレゼンテーション力」、「変革推進力」、「コミュニケーション力」、「自己価値創造力」、「リーダーシップ力」、「オーナーシップ力」)を身につけ多面的な知見から思考・行動することができる。

6.2 評価方法

本学では学生の成長という観点から、学生の学習意欲を引き出し、日々の授業とその理解度に応じた教育プログラムを展開するために、あらゆる場面において学生とのコミュニケーションが重要と考え、特に授業科目については、学生と教員との教育相互契約書としての「学習支援計画書(シラバス)」がその中心的な役割を果たすと位置付けています。本学の学習支援計画書(シラバス)の構成を表 6-1 に示します。

表 6-1 学習支援計画書(シラバス)の構成

A. 授業科目に関する基礎情報	科目区分、科目名、単位数、開講時期、履修条件
B. 教員に関する情報	担当教員名、居室、内線番号、電子メールのアドレス、オフィスアワー
C. 授業科目の学習教育目標	キーワード、学習教育目標、授業の概要および学習上の助言 履修に必要な予備知識や技能、学科の教育目標との関連 学生が達成すべき行動目標、達成度評価の方法、総合力の指標
D. 評価の要点	具体的な評価方法と評価の注意点
E. 具体的な達成の目安	理想的な達成レベルの目安、標準的な達成レベルの目安
F. 授業のスケジュールと内容及び課題	授業回数、学習内容、授業の運営方法、学習課題(予習、復習)と時間

また、本学では、人間力を学力と共に重要視し、「学力×人間力＝統合力」とする評価方法を展開しています。そこで、平成 20 年度から本格的に導入した CLIP(Comprehensive Learning Initiative Process)による成績に関する総合評価を実施しており、その内容(手段と能力)は、従来、「手段」によってのみ成績評価を行ってきたものに、新たに「能力」に相当する項目を導入し統合力として評価します。全ての授業科目において、この評価割合を示しており、その結果、学力(知識を取り込む力、思考・推論・創造力)と人間力(コラボレーション・リーダーシップ、発表・表現・伝達力、学習姿勢・意欲)との両面から評価することが可能となっています。CLIP による成績評価の例として、3 年次の必修科目である科学技術者倫理の評価割合を表 6-2 に示します。特に成績評価割合のうち試験に関しては 40%以下とするルールを設けており、いわゆるペーパーテストの点数のみで評価するのではなく、多面的な成績評価を行っています。

表 6-2 CLIP による成績評価 (参考:科学技術者倫理)

指標と評価割合		評価方法							合計
		試験	クイズ 小テスト	レポート	成果発表	作品	ポート フォリオ	その他	
総合評価割合		20	15	35	15	0	5	10	100
総合 力 指 標	知識を取り込む力	8	7	10	0	0	0	0	25
	思考・推論・創造する力	8	8	10	5	0	0	0	31
	コラボレーションとリーダーシップ	0	0	0	5	0	0	0	5
	発表・表現・伝達する力	4	0	5	5	0	0	0	14
	学習に取り組む姿勢・意欲	0	0	10	0	0	5	10	25

6.3 卒業要件・進級条件・修業年限・学位

(1) 学部

① 卒業要件

学部の卒業要件は、4年以上在学し、必修科目および選択必修科目を含めて、所定の単位を修得することとしており、卒業に必要な最低単位数の内訳は、表 6-3、図 6-1 に示します。

表 6-3 卒業に必要な最低単位数

課程区分	科目区分	科目群	卒業に必要な最低単位数
修学基礎教育課程	修学基礎科目	修学基礎	6
	人間形成基礎科目	人文社会科学・外国語	10
		生涯スポーツ	2
		人間と自然	—
		生涯学習	—
英語教育課程	英語科目	英語	8
数理基礎教育課程	数理基礎科目	数理基礎	16
基礎実技教育課程	基礎実技科目	基礎実技	8
専門教育課程	専門科目	専門	59
	専門プロジェクト科目	専門プロジェクト	9
課程共通			6
合計			124

- (1) 上表の単位には、学則第 18 条別表第 1 及び修学規程に基づく教育課程表の必修科目及び選択必修科目の単位が含まれていなければならない。
- (2) 専門教育課程における卒業に必要な最低単位数は、所属する学科の授業科目の履修により修得していなければならない。
- (3) 課程共通の 6 単位については、人文社会科学・外国語、生涯学習、英語、数理基礎、基礎実技及び専門の科目群から修得していなければならない。
- (4) 卒業要件として、上表の単位のほかに学則第 25 条第 1 項の条件を満たさなければならない。

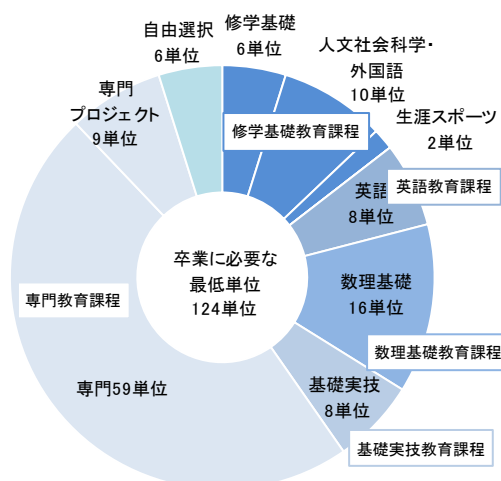


図 6-1 卒業に必要な最低単位数

授業科目の単位数と週授業時間数、必修・選択科目などの詳細は、

<http://www.kanazawa-it.ac.jp/kisoku-gakubu/4-01kateihyou/kateihyou.html> で紹介しています。

課程・学科ごとの学習・教育目標、カリキュラムフロー、授業科目の概要など詳細は、

http://www.kanazawa-it.ac.jp/curriculum_html/index.html で紹介しています。

授業科目の学習支援計画書(シラバス)は、<http://www.kanazawa-it.ac.jp/syllabus/index.html> で紹介しています。

② 進級条件・履修条件

各年次の進級条件を表 6-4、表 6-5 に、履修条件を表 6-6 に示します。

表 6-4 平成 24 年度から平成 29 年度入学生 進級条件

年次	進級条件
2 年次進級	1 年次に 1 年以上在学し、かつ、修得単位数が 20 単位以上であること。
3 年次進級	2 年次に 1 年以上在学し、かつ、習得単位数が 60 単位以上であること。
4 年次進級	3 年次に 1 年以上在学、かつ、「専門ゼミ」を含む習得単位数が 108 単位以上であること。

表 6-5 平成 30 年度入学生 進級条件

年次	進級条件
2 年次進級	1 年次に 1 年以上在学し、かつ、修得単位数が 30 単位以上であること。
3 年次進級	2 年次に 1 年以上在学
4 年次進級	3 年次に 1 年以上在学

表 6-6 平成 30 年度入学生 履修条件

指定科目	履修条件
2 年次以降に開講される科目	習得単位数 30 単位以上
専門実験・演習科目	習得単位数 62 単位以上
「専門ゼミ」	習得単位数 86 単位以上
「プロジェクトデザインⅢ」	1・2 年次の全必修科目ならびに選択必修科目の単位を修得、専門実験・演習科目 A・B、「専門ゼミ」を含む習得単位数 110 単位以上

③ 修業年限および在学期間・在学制限

修業年限および在学期間ならびに在学制限を次に示します。

(金沢工業大学 学則 第 4 章 第 5 条)

- ・ 学部の修業年限は 4 年とする。
- ・ 在学期間は、8 年を超えてはならない。
- ・ 現に学部 に在籍する者は、その間、他の大学、大学院等に在籍することはできない。

④ 学位

取得可能な学位を表 6-7、表 6-8 に示します。

表 6-7 平成 24 年度から平成 29 年度入学生 取得可能な学位

学部	学士
工学部	工学
情報フロンティア学部	情報学
環境・建築学部	工学
バイオ・化学部	理工学

表 6-8 平成 30 年度入学生 取得可能な学位

学部	学士
工学部	工学
情報フロンティア学部	情報学
建築学部	工学
バイオ・化学部	理工学

⑤ 学位授与数

平成 29 年度の学位授与数を表 6-9 に示します。なお、開学以来の学位授与数(平成 29 年度卒業生まで)は、64,706 名となっています。

表 6-9 平成 29 年度学位授与数

学部	学科	学士
工学部	機械工学科	197
	航空システム工学科	50
	ロボティクス学科	100
	電気電子工学科	189
	電子情報通信工学科	65
	情報工学科	202
情報フロンティア学部	メディア情報学科	107
	経営情報学科	69
	心理情報学科	53
情報学部※	情報工学科※	1
環境・建築学部	建築デザイン学科	116
	建築都市デザイン学科※	0
	建築学科	111
	環境土木工学科	68
バイオ・化学部	応用化学科	55
	応用バイオ学科	93
合計		1,476

※ 学部改組に伴い、名称変更を行った学科

(2) 大学院

① 修了要件

大学院修士課程および博士前期課程の修了要件は、当該課程に標準修業年限以上在学し、必修科目および選択必修科目を含め所定の単位を修得して、かつ必要な研究指導を受けたうえ、修士論文又は特定の課題の審査および試験に合格することです。修了に必要な最低単位数の内訳について、工学研究科は表 6-10、表 6-11、表 6-12、表 6-13、表 6-14、心理科学研究科は表 6-15、平成 28 年度に設置したイノベーションマネジメント研究科は、表 6-16 に、工学研究科博士後期は表 6-17 に示します。

表 6-10 平成 24 年度から平成 25 年度入学生

工学研究科(知的創造システム専攻修士課程、高信頼ものづくり専攻博士前期課程 1 年制コースおよびビジネスアーキテクト専攻修士課程 1 年制コースを除く)修了に必要な最低単位数

科目区分	科目群	修了に必要な最低単位数
専修科目	専修科目	8
主要科目	入門科目	—
	基盤科目	6
	応用科目	2
	モジュール統合科目	8
特別科目	特別科目	—
専攻共通	専攻共通	4
合計		36

表 6-11 平成 26 年度から平成 27 年度入学生

工学研究科(知的創造システム専攻修士課程、高信頼ものづくり専攻博士前期課程 1 年制コースおよびビジネスアーキテクト専攻修士課程 1 年制コースを除く)修了に必要な最低単位数

科目区分	科目群	修了に必要な最低単位数
専修科目	専修科目	8
主要科目	入門科目	—
	基盤科目	6
	応用科目	2
	モジュール統合科目	8
特別科目	特別科目	—
専攻共通	科学技術倫理科目	2
	ビジネス系科目	2
	一般科目	2
合計		36

表 6-12 平成 28 年度以降入学生

工学研究科(高信頼ものづくり専攻博士前期課程 1 年制コースを除く)修了に必要な最低単位数

科目区分	科目群	修了に必要な最低単位数
専修科目	専修科目	8
主要科目	入門科目	—
	基盤科目	6
	応用科目	2
	モジュール統合科目	4
特別科目	特別科目	—
専攻共通	科学技術倫理科目	4*
	ビジネス系科目	
	一般科目	
合計		30

※ 専攻共通の各科目群より 1 単位以上を選択して必修とする。
(「プロフェッショナルとしての倫理」と「行動設計 A」は 1 単位の必修科目とする。)

表 6-13 平成 24 年度以降入学生

工学研究科(知的創造システム専攻修士課程およびビジネスアーキテクト専攻修士課程 1 年制コース)
修了に必要な最低単位数

科目区分	修了に必要な最低単位数
専修科目	8
主要科目	28
合計	36

表 6-14 平成 24 年度以降入学生

工学研究科(高信頼ものづくり専攻博士前期課程 1 年制コース)修了に必要な最低単位数

科目区分	修了に必要な最低単位数
専修科目	6
主要科目	24
合計	30

表 6-15 平成 24 年度以降入学生

心理科学研究科 修士課程修了に必要な最低単位数

科目区分	修了に必要な最低単位数	
	必修	選択
専修科目	8	—
関係科目	34	2
合計	44	

表 6-16 イノベーションマネジメント研究科 修士課程修了に必要な最低単位数

科目区分	修了に必要な最低単位数	
	修士(経営管理)	修士(知的財産マネジメント)
専修科目	8	
イノベーションマネジメント共通科目	4 単位以上	
ビジネスマネジメント専門科目	12 単位以上	
知的財産マネジメント専門科目		12 単位以上
合計	36	

表 6-17 工学研究科 博士後期課程修了に必要な最低単位数

科目区分	修了に必要な最低単位数
特殊研究	4
主要科目	2
特別科目	4
合計	10

大学院博士後期課程の修了要件は、当該課程に 3 年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえ、博士論文の審査および試験に合格することです。

授業科目と単位数など詳細は、<http://www.kanazawa-it.ac.jp/kisoku-in/3-01kateihyou/kateihyou.html> で紹介しています。

専攻ごとの学習・教育目標、授業科目の概要など詳細は、

http://www.kanazawa-it.ac.jp/campus_html/c2018.html で紹介しています。

学位取得までのプロセスは、http://www.kanazawa-it.ac.jp/campus_html/pdf/c2018/p049-p053.pdf で紹介しています。

授業科目の学習支援計画書(シラバス)は、http://www.kanazawa-it.ac.jp/syllabus_d/index.html で紹介しています。

② 在学期間および在籍条件

大学院の在学期間および在籍条件を次に示します。

(金沢工業大学大学院 学則 第5章 第9条)

- ・ 大学院における在学期間は、修士課程及び博士前期課程にあつては4年、博士後期課程にあつては6年を超えてはならない。ただし、工学研究科高信頼ものづくり専攻博士前期課程1年制コース及びイノベーションマネジメント研究科イノベーションマネジメント専攻修士課程の在学期間は、3年を超えてはならない。
- ・ 現に大学院に在籍する者は、その間、他の大学院、学部等に在籍することはできない。

③ 学位

大学院の各専攻において、取得可能な学位を表6-18に示します。

表6-18 取得可能な学位

専攻	修士	博士
機械工学専攻	工学	工学
環境土木工学専攻	工学	工学
情報工学専攻	工学	工学
電気電子工学専攻	工学	工学
システム設計工学専攻	工学	工学又は学術
バイオ・化学専攻	理工学	理工学
建築学専攻	工学	工学
高信頼ものづくり専攻	工学	工学
ビジネスアーキテクト専攻	工学又は経営情報	-
臨床心理学専攻	心理学	-
イノベーションマネジメント専攻	経営管理又は知的財産マネジメント	-

④ 学位授与数

大学院の学位授与数(開学以来、平成29年度修了生までの累計)を表6-19に示します。

表6-19 学位授与数

研究科	専攻	修士	課程博士	論文博士
工学研究科	機械工学専攻	1,074	20	53
	土木工学専攻*	128	2	
	環境土木工学専攻	157	4	
	情報工学専攻	597	18	
	電気電子工学専攻	971	21	
	システム設計工学専攻	420	9	
	材料設計工学専攻*	460	27	
	バイオ・化学専攻	178	3	
	建築学専攻	666	1	
	高信頼ものづくり専攻	21	9	
	経営工学専攻*	226	-	
	ビジネスアーキテクト専攻	71	-	
	知的創造システム専攻*	398	-	
心理科学研究科	臨床心理学専攻	59	-	
イノベーションマネジメント研究科	イノベーションマネジメント専攻	43	-	
合計		5,469	114	53

※ 募集停止又は名称変更を行った専攻